

貴州省にて JET 経験者との意見交換会を開催

～日中友好のために必要なものは？～

北京事務所

クレアが実施している JET プログラム(外国青年招致事業)の中国からの参加が 1992 年にスタートしてから、現在では 1,100 名を超える JET プログラム経験者が中国各地で活躍しています。中国では特に、地方政府の国際交流部局の職員が、JET として日本の自治体に派遣されるケースも多く、JET プログラムは日中地域間交流において、相互理解や人材育成等の面で、きわめて重要な役割を果たしています。当事務所では、こうした JET プログラム経験者との、また経験者同士の連携を深めるきっかけとするため、毎年、経験者の皆さんとの交流の場を設けています。

貴州省にて意見交換会を開催

平成 26 年 8 月 19 日から 22 日にかけて、クレアが貴州省貴陽市で開催した「第 13 回日中地域間交流推進セミナー」に合わせ、当セミナーに参加する地方政府の JET 経験者ほか 19 名参加のもと、8 月 19 日に「2014 年 JET 意見交換会」を実施しました。



出席者の多くは日中交流を担う担当者

当日は、当事務所の寺崎所長が司会を務め、来賓として、中国外交部から王鵬一等秘書・孫林三等秘書、在重慶日本国総領事館から鶴岡首席領事、在北京日本国大使館から西水一等書記官に出席いただきました。今回の意見交換会では、「日中の地域間交流・相互理解で大事な視点は何か」をテーマに、JET 経験者の参加者に自由に意見発表を行っていただきました。当初予定していた 1 時間半の時間を越えて活発に交わされた意見の中から、印象的だった内容をいくつかご紹介します。

日中友好のために最も大切なことは？

このテーマに対し、参加者の方々からは、「人的交流」「相互理解」「ふれあい」といった答えが返ってきました。表現の仕方にそれぞれ違いはありますが、実際に互いの国を訪れて、面と向かって話をし、それぞれの文化や生活、土地や価値観を直接体感して理解しあうことが一番重要であるとみなさん考えられていました。

そうした中、「中国から日本への留学生は多いが、日本から中国への留学生は少ない。」など、日本から中国への人的交流が特に減少していることを残念がる声が多くありました。観光の分野でも、昨年末から日本を訪れる中国人の数は過去最高の数字を記録する一方で、中国を訪れる日本人の数は停滞しています。相互訪問を行う事業でも、日本からの参加者

が集まらず、実施が困難になっているケースがあるようです。一方的な交流ではなく、双方向の交流を行ってこそ相互理解ができるはずであり、大きな課題といえます。

また、「次世代の日中間の交流を担う若者同士の相互理解が特に重要」という意見も多く聞かれました。中国の若者は、日本のマンガやアニメといったコンテンツ等を通じて、日本文化に慣れ親しんでいます



が、日本側にも活発に議論を交わす JET 経験者たちの若者が中国文化に持つ理解は薄く、日本側に不足があることは否めません。

そのほか、「環境問題や高齢化問題などの社会課題を通じて行う交流や経済交流が、今後は不可欠」、「国や自治体のトップが友好を重視する姿勢が大事で、トップが動かないと事務レベルではなかなか進まない」といった意見も印象に残りました。

交流活動の積極的アピールを

国同士の関係は冷え込んでいるものの、日中間で 354 もある友好都市同士の交流や民間での交流は、今なお数多く実施されています。しかし、このような地域交流が行われていることが、一般の方々に知られていないことを指摘する意見もありました。ネガティブな日中間の事件は、互いのメディアで過熱報道されていますが、交流事業などのポジティブな情報が双方の全国メディアで広く報道されることは、あまりありません。せっかくの素晴らしい交流事業が、参加者の周辺だけでなく、もっと広い範囲で知ってもらって親しみを持てるように、成果を広く PR、また積極的にメディアを利用していくことも日中友好に必要といえるでしょう。

日中交流の拡大のために

地方政府で、日中交流の最前線に立つ JET 経験者から、直接、交流事業の課題や提言をいただき、大変実りのある意見交換会になりました。また、嬉しいことに、JET プログラムを高く評価する声も多数ありました。JET プログラムのほか、日中間の多彩な交流事業を進めていく上で、今回いただいたご意見やご提言は、強く意識して業務を行っていく必要があります。クレア北京事務所では、今後も、JET 経験者との交流を積極的に行っていきます。



参加者全員での記念写真

(濱岡所長補佐 香川県派遣)